

## イスラム諸国の民主化についての一視点

著者	間 寧
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) <a href="http://www.ide.go.jp">http://www.ide.go.jp</a>
雑誌名	現代の中東
巻	28
ページ	89-99
発行年	2000-03
出版者	日本貿易振興会アジア経済研究所
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2344/708">http://hdl.handle.net/2344/708</a>

# イスラム諸国の民主化についての一視点

間 寧

- I はじめに
- II 方法とデータ
- III 民主的水準の低下：1972～98年
- IV 限られた自由化と非政治的市民社会
- V おわりに

## I はじめに

民主化の第三の波 (Huntington [1991]) は 1970年代半ばに始まり南欧、ラテンアメリカ、東欧、さらにアフリカに広がった。世界各国の民主的水準を調査しているフリーダムハウスの3段階評価(「自由」、「半自由」、「非自由」)で<sup>(註1)</sup>、「自由」な国家は1972年の42から94年の76に、国家全体に占める「自由」な国家の比率も同じ時期に29.0%から39.8%に増えた (Diamond [1996] p. 28, Table 3)。この波に取り残されたのはイスラム諸国であるようにみえる。イスラム教徒が人口の半分以上を占めている国をイスラム国と定義すると、1998年時点で「非自由」な50カ国のうち、過半数の28カ国がイスラム国である (第1表)。これは同時に、42あるイスラム国のうち3分の2にあたる。その一方、1990年代にはイスラム

諸国、なかでも中東諸国における市民社会の勃興や政治的自由化が指摘されるようになった (Norton [1993] ; Norton [1995] ; Brynen, Korany and Noble [1995a] ; Abu-Amr [1996] ; Bendourou [1996] ; Özbudun [1996] ; Solingen [1996] ; Ghabbian [1997] ; Korany, Noble and Brynen [1998] ; Baaklini, Denoeux and Springborg [1999]) <sup>(註2)</sup>。

イスラム諸国が第三の波に乗らなかったのは、その民主化の開始が遅れたためだろうか。それとも実質的な民主化がそもそも起きていないのだろうか。またイスラム諸国はアジアとアフリカに広がる。これらの地理的に多様な諸国に共通する政治変動の傾向はあるのだろうか。イスラム諸国と民主化の関係に地域的違いはないだろうか。本稿は、イスラム諸国全体および地域別の民主的水準が「第三の波」以降の四半世紀の間に上昇したかどうかを、フリーダムハウスのデータから検証する。

第1表 世界各国の民主的水準

国	自由	半自由	非自由
イスラム諸国(42)	0	14	28
非イスラム諸国(149)	88	39	22
合計(191)	88	53	50

(出所) Freedom House [1999] より筆者作成。

## II 方法とデータ

本稿は、フリーダムハウスが世界各国の民主的水準について1972～98年にわたって作成したデータから、イスラム諸国<sup>(註3)</sup>を取り出して分析する。フリーダムハウス調査は毎年世界の国と領土の民主的水準を政治的権利と市民的自由という二つのカテゴリーで評価している。この調査は各国(または領土)に7段階の順位を付ける。1が最も自由で7が最も非自由である。政治的権利の指標は自由公正な選挙、競争的な政党制度、影響力のある野党、国民主権、少数派の権利など、市民的自由の指標は表現の自由、結社の自由、人権、経済的権利などである。本稿では、このフリーダムハウスの二つのカテゴリーによる評価(政治的権利と市民的自由)の平均を「自由の制限」として分析に用いた。たとえばA国の1990年の政治的権利が5で市民的自由が4であるとき、自由の制限は4.5になる。この得点が高いほど民主的水準は低いことになる。

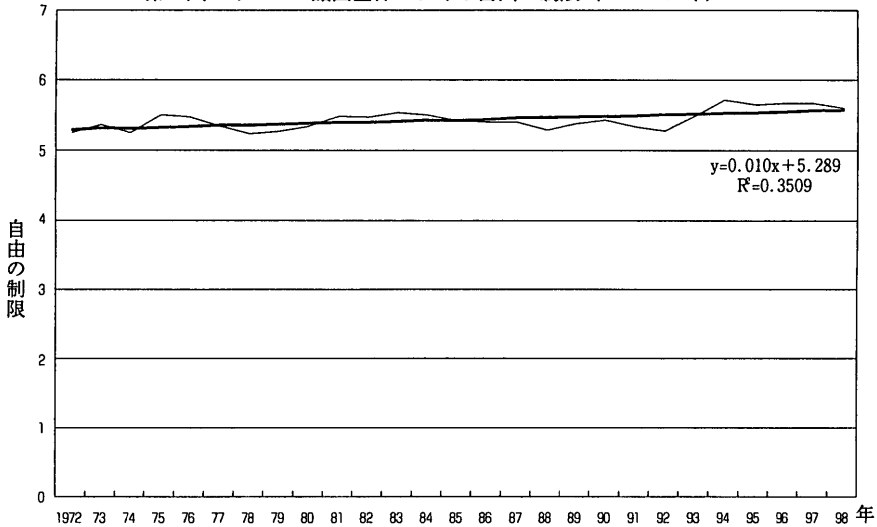
フリーダムハウスのデータは、それが数少ない民主主義の指標であることからマクロ政治分析で広く用いられている。個々の国についての評価の妥当性について疑問を持たれる方がいるかもしれない。しかし本稿が問題にするのは評価の絶対値でなく27年間を通じた変化である。仮にフリーダムハウスのカテゴリー評価に偏り(たとえば特定の国を実際の民主的水準よりも低く評価するなど)があったとしても、偏りが長期的に一定ならば<sup>(註4)</sup>分析結果は大きな影響を受けないであろう。

## III 民主的水準の低下：1972～98年

第1図はイスラム諸国の1972～98年における民主的水準の変化を表している。縦軸は、本稿が上で定義した「自由の制限」である。横軸の時期は、第三の波が始まる直前からごく最近までにあたる。グラフの折れ線は全イスラム諸国の自由の制限の単純平均(非加重平均)を各年でつないだものである。このグラフを見ると、イスラム諸国ではこの時期に民主化は進んでおらず、むしろ非民主的な傾向が強まっていることがわかる。データをトレンド分析すると、年数の経過と自由の制限の間に正の相関関係があることがわかる( $r=.592, p=.001$ )。

しかし、国別のみならず地域別の違いが存在する。イスラム諸国はアジアとアフリカに広がる。第1に、中東ではアルジェリア、バハレーン、エジプト、イラン、イラク、ヨルダン、クウェート、レバノン、リビア、モリタニア、モロッコ、オマーン、カタール、サウジアラビア、ソマリア、スーダン、シリア、チュニジア、トルコ、アラブ首長国連邦、イエメンというイスラム諸国である(第2図)<sup>(註5)</sup>。この地域では、非民主的体制へ向かう傾向がイスラム諸国全体と比べてより強い( $r=.819, p=.000$ )。中東のイスラム諸国における自由の制限は1990年代後半には頭打ちになったが、それ以前の傾向を打ち消すには至らなかった。1972～98年の時期、民主的水準が長期的に上昇してきたのはヨルダンとオマーンだけである(第2表)。そのうちでもオマーンの民主的水準は1998年時点でまだ「非自由」である。中東の21カ国のうち9カ国が、

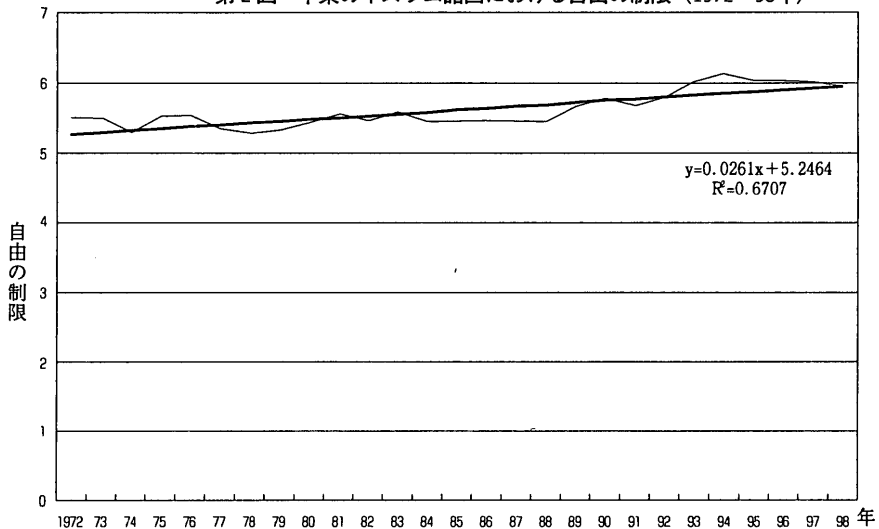
第1図 イスラム諸国全体における自由の制限 (1972~98年)



(注) 細線は実際の値をつないだもの。太線は線形近似。

(出所) 本稿末の付表より筆者作成。

第2図 中東のイスラム諸国における自由の制限 (1972~98年)



(注) 細線は実際の値をつないだもの。太線は線形近似。

(出所) 第1図に同じ。

「非自由」であるとともに民主的水準が長期的に低下している国である。1998年時点で最も「非自由」な6カ国(太字表示)はイラクを除き、民主的水準が下がり続けて現状に至っている。

第2に、中東を除くアジアのイスラム諸国は、アフガニスタン、バングラデシュ、ブルネイ、インドネシア、マレーシア、パキスタンである(第3図)。この地域でも、非民主的体制へ向かう緩やかな傾向がある( $r=.413$ ,

第2表 中東のイスラム諸国における国別民主化 (1972~98年)<sup>1)</sup>

1972~98年の政治変化	「半自由」(1998年現在)		「非自由」(1998年現在)	
	国	相関係数	国 <sup>2)</sup>	相関係数
民主化	ヨルダン	-0.871**	オマーン	-0.606**
変化なし	モロッコ	0.305	アルジェリア	-0.169
			チュニジア	-0.135
			イラク	0.194
			モーリタニア	0.222
			アラブ首長国連邦	0.259
			エジプト	0.299
			イエメン	0.364
非民主化	トルコ	0.488**	リビア	0.423*
	クウェート	0.493**	スーダン	0.550**
			イラン	0.557**
			シリア	0.559**
			カタール	0.616**
			ソマリア	0.728**
			バハレーン	0.746**
			レバノン	0.870**
			サウジアラビア	0.936**

(注) 1) 数字は、年数と自由の制限に関するピアソン相関係数。

2) 太字は、1998年現在で最も自由がない(自由の制限の指標が7)国。

\* 5パーセント水準で有意。

\*\* 1パーセント水準で有意。

(出所) 第1図に同じ。

$p = .05$ )。1972~98年には、インドネシア、マレーシア、アフガニスタン、ブルネイが民主主義から遠ざかり、バングラデシュのみが民主主義に近づいている(第3表)。しかし中東を除くアジア諸国の非民主体制への傾向は中東諸国のそれ( $r = .819$ ,  $p = .000$ )よりかなり弱い。しかも全6カ国のうち4カ国が「半自由」の地位を維持している。

第3に、中東を除くアフリカのイスラム諸国は、チャド、ガンビア、ギニア、マリ、ニジェール、セネガルである(第3図)。イスラム諸国全体の傾向とは逆に、この地域では民主主義へ向かうはっきりとした傾向がある( $r = .727$ ,  $p = .000$ )。中東を除くアフリカではこの時期、6カ国のうち1カ国を除いて民主主義へ近づいた。ただ、4カ国は依然として「非自由」国家である(第4表)。

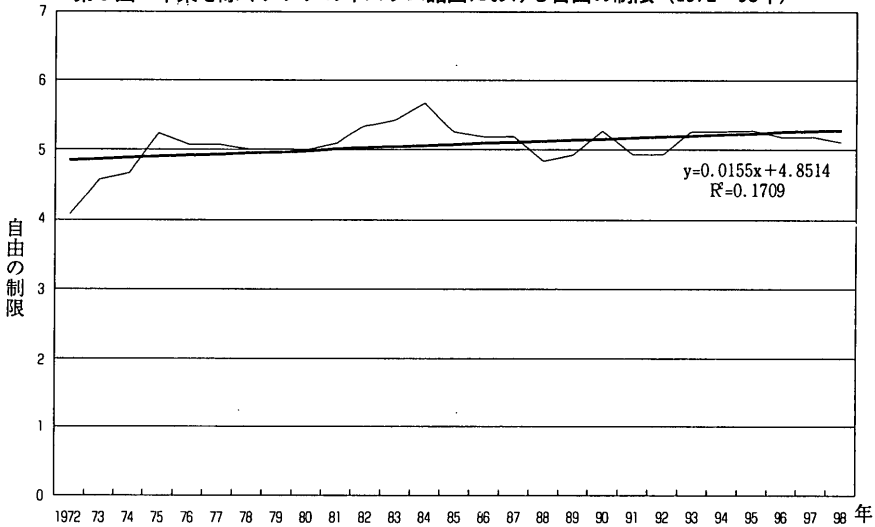
以上の結果を合わせると、民主的水準は3地域で異なり、かつその順位は変化してきた

ことが明らかとなる(第5図)。すなわち1980年代までは中東と中東を除くアフリカが下位を分けていた。しかしそれ以降は、中東を除くアフリカと中東を除くアジアが上位の地位を争う一方、中東がさらに地位を低下させている。つまり、イスラム諸国全体の民主的水準の低下は、中東の民主化水準の低下によってもっぱら引き起こされたのである。

#### IV 限られた自由化と 非政治的市民社会

ところでイスラム諸国の民主化は、なぜ特に中東で遅れているのだろうか。これに対する直接の答えを本稿は持ち合わせていない。ただ、1990年代に中東のイスラム諸国における民主化を期待させる兆候や議論が起きたにもかかわらず、これら諸国の民主的水準の指

第3図 中東を除くアジアのイスラム諸国における自由の制限 (1972~98年)



(注) 細線は実際の値をつないだもの。太線は線形近似。

(出所) 第1図に同じ。

第3表 中東を除くアジアのイスラム諸国における国別民主化 (1972~98年)<sup>1)</sup>

1972~98年の政治変化	「半自由」(1998年現在)		「非自由」(1998年現在)	
	国	相関係数	国 <sup>2)</sup>	相関係数
民主化	バングラデシュ	-0.428*		
変化なし	パキスタン	-0.306		
非民主化	インドネシア	0.697**	アフガニスタン	0.423*
	マレーシア	0.937**	ブルネイ	0.692**

(注) 1) 数字は、年数と自由の制限に関するピアソン相関係数。

2) 太字は、1998年現在で最も非自由(自由の制限の指標が7)である国。

\* 5パーセント水準で有意。

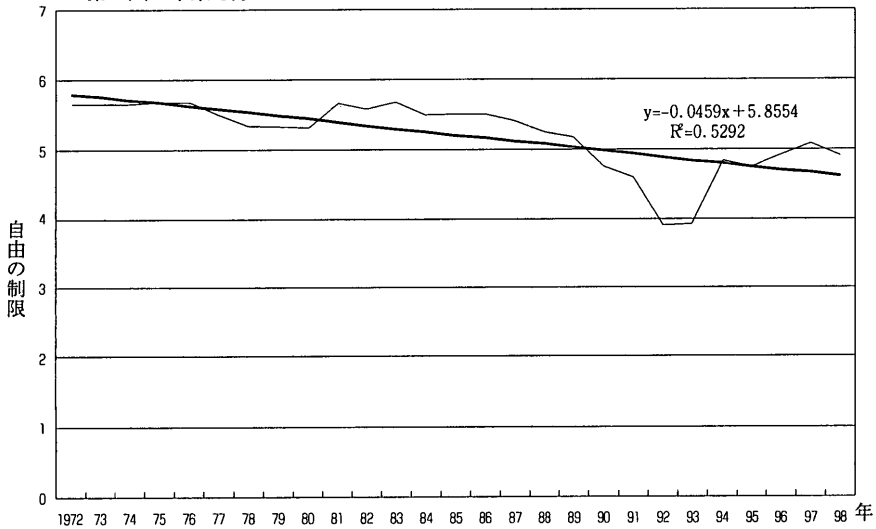
\*\* 1パーセント水準で有意。

(出所) 第1図に同じ。

標が1970~80年代と比べて改善しなかった理由には、以下の三つも含まれよう。第1に、1980年代半ば以降の政治的自由化は、過去からの趨勢を変えるほど大きなものでなかった。当初の政治的自由化の後、政権はそれ以上の民主化を拒んだ(Brynen, Korany and Noble [1995b])<sup>(註6)</sup>。選挙は必ずしも公正でないうえ、国王や首長が持つ行政・立法権限への縛りとなっていない<sup>(註7)</sup>。このため、選挙はほとんどの場合政権交代と無縁だった(Ghadbian

[1997]p.47)。議会は、多くの場合立法権限を欠き、議論の場にとどまっている。ヨルダンやクウェートの自由化は、もともと存在していた議会の復活だった。パハレーンの諮問会議やシリアの影響下にあるレバノンの議会は、閉鎖される前の両国の議会に比べて限られた機能しか果たしていない。さらに指摘すべきこととして、人権の実態が明らかになりにくい。チュニジアでは1989年以降、エジプトでは1990年代初期以降、政府によるイスラム派

第4図 中東を除くアフリカのイスラム諸国における自由の制限 (1972~98年)



(出所) 第1図に同じ。

第4表 中東を除くアフリカのイスラム諸国における国別民主化 (1972~98年)<sup>1)</sup>

1972~98年の政治変化	「半自由」(1998年現在)		「非自由」(1998年現在)	
	国	相関係数	国	相関係数
民主化	マリ <sup>2)</sup>	-0.839**	ギニア	-0.899**
	セネガル	-0.499**	チャド	-0.645**
変化なし			ニジェール	-0.563**
非民主化			ガンビア	0.664**

(注) 1) 数字は、年数と自由の制限に関するピアソン相関係数。

2) 1998年現在で「自由」。

\* 5パーセント水準で有意。

\*\* 1パーセント水準で有意。

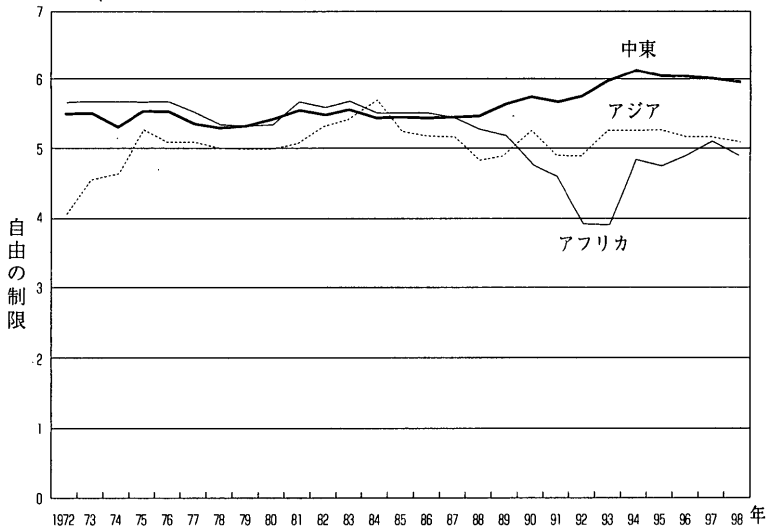
(出所) 第1図に同じ。

弾圧などにより人権水準が低下したとされる (Ghadbian[1997]p.44)。コラニーらの分析によれば、アルジェリア、イラク、リビア、スーダン、イエメンの殺人・失踪、拷問、法治主義の指標は、いずれも4段階評価で最低だった (Korany, Noble and Brynen [1998] Appendix 5)<sup>(注8)</sup>。

第2に、中東のほとんどの政権は従順な市民社会に対しては寛容だが、その政治的主張を許さない。このような態度は、市民社会に

対する政権側の実利主義と懐疑の現れである。エジプトでは、国家は公共サービスの低下を市民社会組織に穴埋めさせる一方で、これら組織の政治活動を強く規制している (Kandil [1998] ; Al-Sayyid [1995a])。チュニジア国家は、市民社会が体制に挑戦しない限りその成長を促している (Bellin [1995])。モロッコでは、国家は意識的に非政府部門組織を増やしてきた。社会的不平等の改善と民主化のイメージ作りに役立つからである。国家はしか

第5図 アジア、中東、アフリカ諸国における自由の制限（1972～98年）



(出所) 第1図に同じ。

し、様々な法的、政治的手段を用いて任意団体を体制内に取り込んできた (Korany [1998] p.174)。任意団体の数が1990年代に7万に達したトルコでさえ、軍事政権 (1980～83年) が起草した1982年憲法は市民社会組織の政治活動を禁止した。その禁止は、1995年の憲法改正でようやく解けた (Hazama [1999])。

第3に、市民社会内部の問題がある。人材や資金不足により市民社会組織の活動に限界があることに加え (Korany [1998] p.174)、特にアラブ諸国において、市民社会のエリートの構造が労働者や貧困層を含む広範な連合の形成を阻んでいる可能性がある (Brynen, Korany and Noble [1995b])。市民社会の概念は、モロッコ、チュニジア、エジプト、クウェートの民間ビジネスグループにほぼ重なる (Al-Sayid [1995b] pp.138-139)。大衆を取り込んだシリアの権威主義体制は、ブルジョアジーの利害と労働者・農民の利害を対峙させることにより市民社会を分断する潜在力を持っている

る (Hinnebusch [1995])。

## V おわりに

結論として、「第三の波」に乗り遅れたのは、イスラム諸国全体と言うよりは中東のイスラム諸国だった<sup>(註9)</sup>。中東のイスラム諸国では過去27年間で見ると、民主的水準は低下傾向にあった。1990年代後半になってその傾向によりやく歯止めがかかったかに見えるが、そのわずかな変化はそれ以前からの趨勢を覆すほどではない。これはアフリカのイスラム諸国が過去27年で民主化傾向にあるのと対照的である。1990年代の中東のイスラム諸国において、政治的自由化はおおむね民主化に結びつかなかった。国家は市民社会の自立を促す一方でその自律性を制限している。市民社会自体も内部的脆弱性を抱えている。

今後も中東のイスラム諸国では、この趨勢



が続くのだろうか。本稿は政治的自由化が民主化につながらない(民主化の十分条件でない)点を指摘した。しかしその一方、政治的自由化は民主化への必要条件ではある。オドネルとシュミッターらによれば、20世紀の主要な民主化事例のほとんどで民主化の前に政治的自由化が起きている(O'Donnell and Schmitter [1996] p.10)。この意味で、中東において1990年代の変化が政治的自由化にとどまっているとしても、長期的に見た民主化の可能性は、弱まるよりも強まったと言える。また社会運動論は、政治的自由化と(民主化を求める)社会運動との関係を指摘している。それによれば、政治的自由化は、エリート連合の不安定化、有力な支持者の存在などとともに政治的機会(political opportunity)を構成する(McAdam [1996] p.27)。政治的機会は、社会運動に参加する人々の危険を弱めるとともに成功の期待を高め、社会運動の引き金となる(Tarrow [1998] pp.19-20) <sup>(注10)</sup>。政治的自由化の小さな一歩は、政治体制の民主化に直接つながるとは限らない。しかしそれは、社会運動に対する人々の期待を高め、民主化運動のための土壌を作り出すであろう。

(はざま やすし/地域研究第2部)

(注1) 世界の自由についてのフリーダムハウスの調査は、政治的権利と市民的自由という二つの軸で自由の度合いを測っている。それぞれの軸は7段階指標から成り、1が最も自由、7が最も非自由である。両指標の平均が2.5以下の国は「自由」、3から5.5未満が「半自由」、5.5以上が「非自由」である(Diamond [1996] p.24)。詳しくは、II参照。

(注2) 1980年代以降、中東では任意団体や共同体

組織が増加している。アラブ諸国の非政府組織(NGO)は1960年代の約2万から1980年代末の約7万に増えた。アラブ世界における市民社会組織増加の主な理由は、政府部門の縮小、教育水準の上昇、民間金融制度の発達、政治的自由の緩やかな拡大であるとされる(Ibrahim [1995] pp.39-40)。モリタニア、モロッコ、チュニジア、エジプト、ヨルダン、イエメンでは結社の自由がある程度認められている(Al-Sayyid [1995b] p.141)。アラブ湾岸の保守的な諸国では1990年代、クエート、バハレーン、カタールで、民意を代表する制度の復活または導入を、社会勢力が求めた(Crystal [1995])。

1980年代半ば頃から政治的自由化の兆しも見えた。スーダンではヌメイリ独裁体制の崩壊後、1986年に自由な議会選挙を行った。エジプトでは1987年選挙が批判的野党を生んだ。チュニジアでは、ブルギバ大統領が1987年に政権を追われ、1989年に議会選挙が行われた。1990年には選挙法改正委員会に野党が参加している。北イエメンでは1988年に初めての諮問議会選挙が行われた。ヨルダンでは自由な総選挙を1989年に再開した。アルジェリアの支配政党は1989年、一党独裁に終止符を打ち、自由な総選挙を1990年に行った。スーダン、アルジェリア、エジプト、チュニジアはその後自由化を逆行させたが、ヨルダンと統一イエメンは自由化の試みを維持した。民主的水準が特に低い諸国でも、リビアが1988年に全政治犯の釈放を発表した。シリアとイラクは1990年の議会選挙で、それまでより多くの無所属候補の当選を許している。その後、バハレーン、オマーン、サウジアラビアは諮問会議を導入している(Ghadbian [1997] pp.44-45)。

(注3) ただ、フリーダムハウスのデータが1972~98年について完全にそろっていないアゼルバイジャン、中央アジア諸国、コモロ、ジブチ、および地理的にアジアでもアフリカでもない唯一のイスラム国であるアルバニアは以下の分析の対象から外した。イエメンについてのデータは、1972~89年については北イエメン、1990年以降は統一イエメンのものを用いた。イエメンの統一では、北が南を実質的に吸収したからである。

- (注4) ある時期には真の値より高い評価、別の時期には低い評価になるというのは実際上考えにくい。
- (注5) 本稿は別途、イスラム諸国を(1)アフリカを除く中東、(2)中東を除くアジア、(3)アフリカに分けて分析を行ったが、その結果は以下の結果とほとんど同じだった。
- (注6) 政治的自由化と民主化は概念的に区別される。オドンネルとシュミッターによれば、(政治的)自由化は、国家や第三者の恣意的、非合法的行為から個人や社会集団が自らを守る権利が定着する過程である。これに対し民主化は、市民的権利(法の下での平等)と市民的義務(政府の説明責任)の原則が、(恣意的だった)政治制度や(排除されていた)市民に適用されていくことを意味する。つまり、権威主義政権が、表現、集会、結社などの自由を部分的に認める(自由化する)一方で、公正な選挙による政権交代の原則を認めない(民主化しない)ことは十分起こりうる(O'Donnell and Schmitter [1996] pp.7-11)。
- (注7) イエメンでは選挙は競争的で、大統領は議会によって選ばれている(次期からは国民による直接選挙)。しかし大統領が事実上政令による支配を行っているため、議会は議論の場ではあっても立法機能を欠いている(Freedom House[1999])。
- (注8) 彼らのデータの出所は、米国国務省による「国別人権実態1997年報告書」および「国際アムネスティー1997年次報告書」である。
- (注9) このことからすると、民主化の遅れをイスラムと直接結び付ける議論には懐疑的にならざるを得ない。
- (注10) ラテンアメリカの民主化では、政治的自由化、エリート内の分裂(強硬派と穏健派)、カトリック教会の支援が政治的機会を形成した(Hipsher [1998] pp.155-156)。ソ連の民主化では、ゴルバチョフ共産党書記長が社会主義的多元主義という形で政治的自由化を始めた。彼は市民グループの結成を容認したが、それはやがて新政党の結成につながった。東欧ではソ連での改革(ペレストロイカ)の進展に加え、ゴルバチョフがワルシャワ条約機構加盟国への軍事介入を否定したことが政治的機会を広げた(Tarrow [1998] pp.74-75)。

1998年に下からの圧力で民主化を行ったインドネシアでは、1980年代末から政治的自由化が徐々に進むとともに、エリート内に体制批判勢力が生まれていた。スハルト大統領は1990年代半ばに政治的抑圧に転じたが、民主化への社会的要求はむしろ強まった(Uhlin [1997] chap.7)。トルコでは1995年に市民社会組織の政治活動が合法化されると、1997年には大規模な社会運動が起きてイスラム派政権に退陣を迫っている(Hazama [1999] pp.86-91)。

#### 【参考文献】

- Abu-Amr, Ziyad [1996], "Pluralism and the Palestinians," *Journal of Democracy*, 7 (3) : 83-93.
- Al-Sayyid, Mustafa Kamil [1995a], "A Civil Society in Egypt?" in Norton ed. [1995].
- Al-Sayyid, Mustafa Kamil [1995b], "The Concept of Civil Society and the Arab World," in Brynen, Korany and Noble eds. [1995a].
- Baaklini, Abdo, Guilain Denoex and Robert Springborg [1999], *Legislative Politics in the Arab World : The Resurgence of Democratic Institutions*, Boulder, Colo.: Lynne Rienner.
- Bellin, Eva [1995], "Civil Society in Formation: Tunisia," in Norton ed. [1995].
- Bendourou, Omar [1996], "Power and Opposition in Morocco," *Journal of Democracy*, 7 (3) : 108-122.
- Brynen, Rex, Bahgat Korany and Paul Noble eds. [1995a], *Political Liberalization and Democratization in the Arab World, Vol. 1 : Theoretical Perspectives*, Boulder, Colo.: Lynne Renner.
- Brynen, Rex, Bahgat Korany and Paul Noble [1995b], "Trends, Trajectories or Interesting Possibilities? Some Conclusions on Arab Democratization and Its Study," in Brynen, Korany and Noble eds. [1995a].
- Brynen, Rex, Bahgat Korany and Paul Noble [1998], "Conclusion : Liberalization, Democratization, and Arab Experiences," in Kor-

- any, Noble and Brynen eds. [1998].
- Crystal, Jill [1995], "Civil Society in the Arabian Gulf," in Norton ed. [1995].
- Diamond, Larry [1996], "Is the Third Wave Over?" *Journal of Democracy*, 7 (3) : 20-37.
- Freedom House [1999], *Freedom in the World, 1998-99*, <http://www.freedomhouse.org/>.
- Ghadbian, Najib [1997], *Democratization and the Islamist Challenge in the Arab World*, Boulder, Colo.: Westview.
- Hazama, Yasushi [1999], "Civil Society in Turkey," in Gençkaya, Ömer Faruk, Ruşen Keleş and Yasushi Hazama, *Aspects of Democratization in Turkey*, M. E. S. Series, No.46, Tokyo : Institute of Developing Economies.
- Hinnebusch, Raymond A. [1995], "State, Civil Society, and Political Change in Syria," in Norton ed. [1995].
- Hipsher, Patricia L. [1998], "Democratic Transitions and Social Movement Outcomes : The Chilean Shantytown Dwellers' Movement in Comparative Perspective," in Giugni, Marco G., Doug McAdam and Charles Tilly eds., *From Contention to Democracy*, Lanham, Md.: Rowman & Littlefield.
- Huntington, Samuel P. [1991], *The Third Wave : Democratization in the Late Twentieth Century*, Norman : University of Oklahoma Press.
- Ibrahim, Saad Eddin [1995], "Civil Society and Prospects for Democratization in the Arab World," in Norton ed. [1995] .
- Kandil, Amani [1998] , "The Nonprofit Sector in Egypt," in Anheimer, Helmut K. and Lester M. Salamon, eds., *The Nonprofit Sector in the Developing World*, Manchester: Manchester University Press.
- Korany, Bahgat [1998], "Monarchical Islam with a Democratic Veneer : Morocco," in Korany, Noble and Brynen eds. [1998] .
- Korany, Bahgat and Paul Noble [1998], "Introduction : Arab Liberalization and Democratization-The Dialectics of the General and the Specific," in Korany, Noble and Brynen eds. [1998].
- Korany, Bahgat, Paul Noble and Rex Brynen eds. [1998], *Political Liberalization and Democratization in the Arab World, Vol. 2: Comparative Experiences*, Boulder, Colo.: Lynne Rienner.
- McAdam, Doug [1996], "Conceptual Origins, Current Problems, Future Directions," in McAdam, Doug, John D.McCarthy and Mayer N. Zald eds., *Comparative Perspectives on Social Movements: Political Opportunities, Mobilizing Structures, and Cultural Framings*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Norton, Augustus Richard [1993], "The Future of Civil Society in the Middle East," *Middle East Journal*, 47 (2): 205-216.
- Norton, Augustus Richard ed. [1995], *Civil Society in the Middle East*, Vols.1-2, Leiden: E. J. Brill.
- O'Donnell, Guillermo and Philippe C. Schmitter [1996], *Transitions from Authoritarian Rule: Tentative Conclusions about Uncertain Democracies*, Md., Baltimore: The Johns Hopkins University Press.
- Özbudun, Ergun [1996], "Turkey: How Far from Consolidation?" *Journal of Democracy*, 7 (3) : 123-138.
- Solingen, Etel [1996], "Quandaries of the Peace Process," *Journal of Democracy*, 7 (3) : 139-153.
- Tarrow, Sidney [1998], *Power in Movement : Social Movements and Contentious Politics, Second Edition*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Uhlen, Anders [1997], *Indonesia and the "Third Wave of Democratization,"* Surrey : Curzon.
- Weekes, V. Richard ed. [1984], *Muslim Peoples, A World Ethnographic Survey, Second Edition*, Westport: Greenwood Press.

付表 イスラム諸国における自由の制限\* (1972~98年)

年	アフガニスタン	アルジェリア	リビア	エジプト	チュニジア	ソマリア	カタール	クウェート	レバノン	リビア	マレーシア	マリ	モーリタニア
1972	4.5	6	6	6.5	6	6.5	6	6	2	6.5	2.5	6.5	6
1973	6.5	6	6	6.5	6	6.5	6	6	3.5	7	2.5	6.5	6
1974	6.5	6	6	6.5	6	6.5	6	6	3.5	7	3	6.5	6.5
1975	6.5	6.5	6	6.5	6	6.5	6	6	3.5	7	3.5	7	6
1976	6.5	6	6	6.5	6	6.5	6	6	3.5	7	3.5	7	6
1977	6	6	6	6.5	6	6.5	6	6	4	6.5	3.5	7	6
1978	6	6	6	6.5	6	6.5	6	6	4	6.5	3.5	7	6
1979	6	6	6	6.5	6	6.5	6	6	4	6.5	3.5	7	6
1980	6	6	6	6.5	6	6.5	6	6	4	6.5	3.5	7	6
1981	6	6	6	6.5	6	6.5	6	6	4	6.5	3.5	7	6
1982	6	6	6	6.5	6	6.5	6	6	4	6.5	3.5	7	6
1983	6	6	6	6.5	6	6.5	6	6	4	6.5	3.5	7	6
1984	6	6	6	6.5	6	6.5	6	6	4	6.5	3.5	7	6
1985	6	6	6	6.5	6	6.5	6	6	4	6.5	3.5	7	6
1986	6	6	6	6.5	6	6.5	6	6	4	6.5	3.5	7	6
1987	6	6	6	6.5	6	6.5	6	6	4	6.5	3.5	7	6
1988	6	6	6	6.5	6	6.5	6	6	4	6.5	3.5	7	6
1989	6	6	6	6.5	6	6.5	6	6	4	6.5	3.5	7	6
1990	6	6	6	6.5	6	6.5	6	6	4	6.5	3.5	7	6
1991	6	6	6	6.5	6	6.5	6	6	4	6.5	3.5	7	6
1992	6	6	6	6.5	6	6.5	6	6	4	6.5	3.5	7	6
1993	6	6	6	6.5	6	6.5	6	6	4	6.5	3.5	7	6
1994	6	6	6	6.5	6	6.5	6	6	4	6.5	3.5	7	6
1995	6	6	6	6.5	6	6.5	6	6	4	6.5	3.5	7	6
1996	6	6	6	6.5	6	6.5	6	6	4	6.5	3.5	7	6
1997	6	6	6	6.5	6	6.5	6	6	4	6.5	3.5	7	6
1998	6	6	6	6.5	6	6.5	6	6	4	6.5	3.5	7	6
1999	6	6	6	6.5	6	6.5	6	6	4	6.5	3.5	7	6
1998年	99.0	99.0	99.3	82.9	51.0	91.1	87.0	69.3	80.0	98.0	96.0	60.0	99.0
1983年	99.0	99.0	99.3	82.9	51.0	91.1	87.0	69.3	80.0	98.0	96.0	60.0	99.0

年	モロッコ	ニジェール	オマーン	バハレーン	カタール	クウェート	サウジアラビア	セネガル	ソマリア	スーダン	シリア	チュニジア	トルコ	アラブ首長国連邦	イエメン	北イエメン	中東	アジア	アフリカ	イスラエル
1972	4.5	6	6.5	6.5	4	5.5	6	6	6	6.5	7	5.5	3.5	6	4	4.1	5.5	5.5	5.7	5.3
1973	5	6.5	6.5	6.5	4	5.5	6	6	6	6.5	7	5.5	3	6	4.5	4.6	5.5	5.5	5.7	5.4
1974	5	6.5	6.5	6.5	4	5.5	6	6	6	6.5	7	5.5	2.5	6	4.5	4.7	5.3	5.5	5.7	5.3
1975	5	6.5	6.5	6.5	4	5.5	6	6	6	6.5	7	5.5	2.5	6	4.5	5.3	5.5	5.7	5.5	5.3
1976	5	6.5	6.5	6.5	4	5.5	6	6	6	6.5	7	5.5	2.5	6	4.5	5.1	5.5	5.7	5.5	5.3
1977	3.5	6.5	6.5	6.5	4	5.5	6	6	6	6.5	7	5.5	2.5	6	4.5	5.1	5.4	5.5	5.5	5.3
1978	3.5	6.5	6.5	6.5	4	5.5	6	6	6	6.5	7	5.5	2.5	6	4.5	5.0	5.3	5.5	5.5	5.3
1979	3.5	6.5	6.5	6.5	4	5.5	6	6	6	6.5	7	5.5	2.5	6	4.5	5.0	5.3	5.5	5.5	5.3
1980	4.5	6.5	6.5	6.5	4	5.5	6	6	6	6.5	7	5.5	2.5	6	4.5	5.0	5.3	5.5	5.5	5.3
1981	4.5	6.5	6.5	6.5	4	5.5	6	6	6	6.5	7	5.5	2.5	6	4.5	5.0	5.3	5.5	5.5	5.3
1982	4.5	6.5	6.5	6.5	4	5.5	6	6	6	6.5	7	5.5	2.5	6	4.5	5.0	5.3	5.5	5.5	5.3
1983	4.5	6.5	6.5	6.5	4	5.5	6	6	6	6.5	7	5.5	2.5	6	4.5	5.0	5.3	5.5	5.5	5.3
1984	4.5	6.5	6.5	6.5	4	5.5	6	6	6	6.5	7	5.5	2.5	6	4.5	5.0	5.3	5.5	5.5	5.3
1985	4.5	6.5	6.5	6.5	4	5.5	6	6	6	6.5	7	5.5	2.5	6	4.5	5.0	5.3	5.5	5.5	5.3
1986	4.5	6.5	6.5	6.5	4	5.5	6	6	6	6.5	7	5.5	2.5	6	4.5	5.0	5.3	5.5	5.5	5.3
1987	4.5	6.5	6.5	6.5	4	5.5	6	6	6	6.5	7	5.5	2.5	6	4.5	5.0	5.3	5.5	5.5	5.3
1988	4.5	6.5	6.5	6.5	4	5.5	6	6	6	6.5	7	5.5	2.5	6	4.5	5.0	5.3	5.5	5.5	5.3
1989	4.5	6.5	6.5	6.5	4	5.5	6	6	6	6.5	7	5.5	2.5	6	4.5	5.0	5.3	5.5	5.5	5.3
1990	4.5	6.5	6.5	6.5	4	5.5	6	6	6	6.5	7	5.5	2.5	6	4.5	5.0	5.3	5.5	5.5	5.3
1991	4.5	6.5	6.5	6.5	4	5.5	6	6	6	6.5	7	5.5	2.5	6	4.5	5.0	5.3	5.5	5.5	5.3
1992	4.5	6.5	6.5	6.5	4	5.5	6	6	6	6.5	7	5.5	2.5	6	4.5	5.0	5.3	5.5	5.5	5.3
1993	4.5	6.5	6.5	6.5	4	5.5	6	6	6	6.5	7	5.5	2.5	6	4.5	5.0	5.3	5.5	5.5	5.3
1994	4.5	6.5	6.5	6.5	4	5.5	6	6	6	6.5	7	5.5	2.5	6	4.5	5.0	5.3	5.5	5.5	5.3
1995	4.5	6.5	6.5	6.5	4	5.5	6	6	6	6.5	7	5.5	2.5	6	4.5	5.0	5.3	5.5	5.5	5.3
1996	4.5	6.5	6.5	6.5	4	5.5	6	6	6	6.5	7	5.5	2.5	6	4.5	5.0	5.3	5.5	5.5	5.3
1997	4.5	6.5	6.5	6.5	4	5.5	6	6	6	6.5	7	5.5	2.5	6	4.5	5.0	5.3	5.5	5.5	5.3
1998	4.5	6.5	6.5	6.5	4	5.5	6	6	6	6.5	7	5.5	2.5	6	4.5	5.0	5.3	5.5	5.5	5.3
1999	4.5	6.5	6.5	6.5	4	5.5	6	6	6	6.5	7	5.5	2.5	6	4.5	5.0	5.3	5.5	5.5	5.3
1998年	87.4	99.0	99.0	97.0	95.0	91.0	99.0	72.0	87.0	99.4	99.2	80.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0
1983年	87.4	99.0	99.0	97.0	95.0	91.0	99.0	72.0	87.0	99.4	99.2	80.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0

\* 政治的権利と市民的自由の評価の平均。両カテゴリとも、1は最も自由、7は最も非自由。 \*\* 約50%。

(出所) Freedom House [1999] ; Weekes [1984].